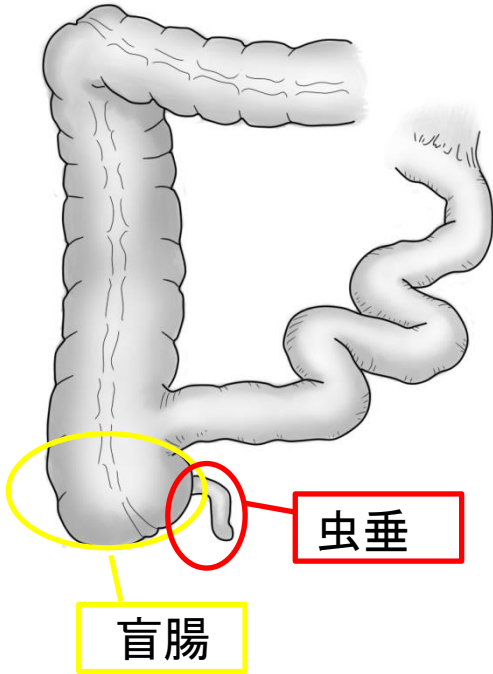


病気の解説

こどもの虫垂炎(いわゆる盲腸)について



どんな病気??

虫垂が炎症を起こす病気で、年長児～学童期、成年期以降もよく見られる疾患です。原因としてストレス、便秘など諸説ありますが、科学的にはっきりとした原因は証明されていません。

どんな症状があるの??

まずはみぞおちあたりの不快感、吐き気が出現しますが、無い方もいます。そして、徐々に右下腹部が痛くなってきます。状態が重症化するとおなか全体が痛くなったり高熱がでたりします。歩いたりおなかを揺さぶったりしたときにおなかに響く場合は重症の可能性があります。(腹膜炎)

初期症状は胃腸炎と似ているため、発症初期に診断することが難しい場合があります。胃腸炎や便秘と診断された場合でも症状が続く場合にはもう一度病院を受診するようにしましょう。特にこどもの虫垂炎では重症化、腹膜炎になるスピードが大人よりも少し早いとも言われています。

どの病院に行けばいいの??

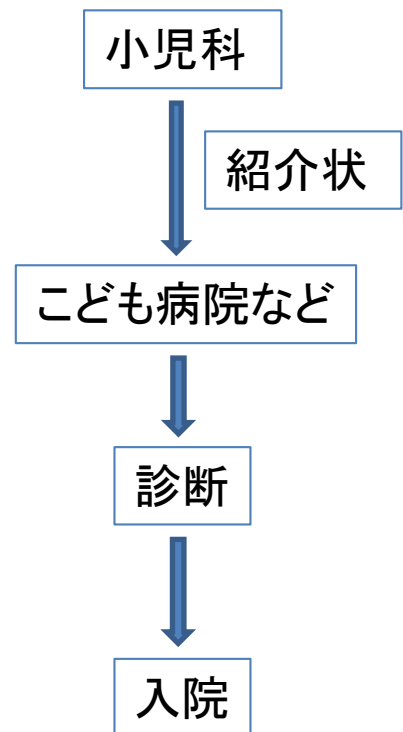
15歳未満の場合はまずは小児科を受診してください。そこで虫垂炎が疑われればこども病院など、こどもの外科疾患に対応できる病院を紹介してもらってください。

病院ではどんなことをするの??

まずは診断を確定します。問診、診察、採血を行い、超音波検査やCT検査で診断を確定します。通常、虫垂炎と診断されれば入院加療が必要です。診断が確定すれば治療方針を立てます。

治療は??

抗生物質による治療と手術による治療があります。重症度やそれぞれの治療方法の利点、欠点を考慮しながら担当医と患者さんの間で治療方針を決定します。治療中でも、治療方法を変更することは可能です。医師の説明をしっかりと聞いたうえで最終的にはご自身もしくは保護者の方が判断してください。



具体的な治療方法について

抗生物質による治療

入院し食事を制限しながら抗生物質の点滴を行います。

軽症なら2～3日程度で退院できる場合もありますが、重症になるにつれ入院期間は長くなります。

また、抗生物質治療が効果不十分であった場合、治療途中でも手術治療を勧められることがあります。

抗生物質で治癒した場合、虫垂炎の再発を起こす可能性があると言われています。

(20～30%)

手術治療

入院当日もしくは翌日に手術を行います。

開腹による手術と腹腔鏡を用いた手術がありますが、施設により手術方法に違いがあります。

また、重症度に応じて、手術創が大きくなったり腹腔鏡手術のポートの数が増加する場合があります。

術後にドレーンと呼ばれる腹腔内チューブが留置されることもあります。

入院期間は軽症の場合は3日～4日、重症になるにつれ長くなります。

虫垂は切除しても問題ないの??

最近、免疫機能との関連が一部で言われていますが、現在ではヒトにおける虫垂切除の問題点は指摘されてはいません。

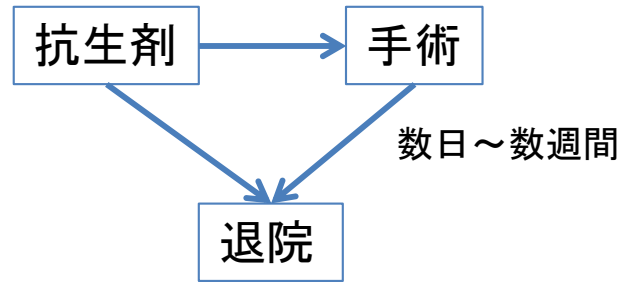
進化の過程で遺残した、無機能の臓器と考えられています。

静岡県立こども病院での手術治療

基本的にはなるべく創が目立たないような臍を用いた単孔式腹腔鏡手術を行っています。臍の手術創は肉眼的にほとんどわからなくなります。

また、開腹手術に比べ回復も早く、ストレスの軽減、早期の社会復帰という点でもよい影響であると考えています。

当院では年間30例程度と多数の小児腹腔鏡下虫垂切除術を行っています。代表的な合併症である術後の遺残膿瘍の発症率は重症例で10～20%と、開腹手術や他施設との比較においても遜色ない良好な成績となっています。



手術の様子

八光メディカルホームページより
写真提供 京都 西陣病院



手術器具 STORZホームページより



術後の臍創部 当院症例

